

第4回長崎県総合計画・総合戦略懇話会（しごと部会）

日時：令和7年10月9日（木）14：00～15：00

場所：長崎県庁312会議室

出席：鶴田部会長、安達委員、池田委員、犬束委員、大久保委員、大島委員、後藤委員、富永委員、
原田委員、松山委員

（事務局）

本日はお忙しいところ、ご出席いただきましてありがとうございます。

定刻となりましたので、第4回長崎県総合計画・総合戦略懇話会 しごと部会を開会いたします。
本日の進行を務めます、政策企画課長の内田でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

委員の皆様方におかれましては、1月の第1回懇話会以降、新しい総合計画の策定に向けて、共に
ご議論いただき、改めて感謝申し上げます。

それでは、早速進めさせていただきます。前回、7月末に開催いたしました懇話会では、10年
後の本県のめざす姿を示す「基本理念」についてまだお示しできておりませんでした。これまでの
懇話会での議論・ご意見等を踏まえ、県民の皆様にわかりやすく伝えるメッセージとして、
「ながさきの誇りと希望を力に、みんなで夢あふれる未来をひらく」という基本理念を掲げたいと
考えております。

また、9月定例県議会においても、この基本理念を含む次期総合計画の素案をお示しし、数値目
標や事業の取組など、詳細にわたってご議論いただきました。

さらに、並行して県民の皆様を対象に、10月6日までパブリックコメントを実施いたしました。
いただいたご意見については、必要に応じて成案に反映していく予定です。

さて、皆様方にお力添えをいただいてまいりました次期総合計画の策定に向けた懇話会ですが、
本日の第4回をもって最終回となります。

本日は、この部会の後、15時30分から全体会を開催し、各部会長様からこれまでの総括とし
て、部会での議論内容をご報告いただく予定です。

本日の部会では、これまでご議論いただいた5つの柱の内容のほか、地方創生や県民所得向上な
どのテーマ別の取組、あるいは地域別の取組などを含め、現時点での総合計画について幅広くご意
見をいただきたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは鶴田部会長、進行をよろしくお願いいたします。

鶴田部会長

皆さん、こんにちは。

今日は「くんち」の日ということで、本来であれば秋の雰囲気を感じる頃かと思いますが、今年
は本当に暑さが続いております。そんな中、本日はご参加いただき、心より感謝申し上げます。

本日で第4回目ということで、早いものです。毎回、皆様には活発なご議論をいただき、たくさ
んのご意見を頂戴しました。いただいたご意見は、今回の素案に反映されているだけでなく、今後
進めていく事業にも反映されていると伺っております。

本日は最後の懇話会となりますが、限られた時間の中で、ぜひ「言い残したこと」や「一言伝え

たいこと」なども含めて、ご意見をいただければと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、最初に事務局の方から本日の資料についてご説明をお願いいたします。よろしくお願いいたします。

（事務局）

まず、本日使用する資料として長崎県総合計画（案）、こちらを中心にご説明させていただきます。

まず表紙ですが、庁内で検討した結果、計画の名称は「長崎県総合計画 みんなの未来図 2030」という案を掲げたいと考えております。この「みんなの未来図」という言葉には、これからの5年間、県の政策の方向性を“未来図”として示し、それを県民の皆様と一緒に進めていきたいという思いを込めております。また、この名称は、後ほどご説明する基本理念にもつながっていく考え方を持っています。

具体的な中身に入りまして、6ページをご覧ください。冒頭でも申し上げましたように、基本理念として、四角で囲んでいる部分に「ながさきの誇りと希望を力に、みんなで夢あふれる未来をひらく」という言葉を掲げたいと考えております。特に「ひらく」という言葉には、未来を切り拓くという意味に加え、今回新たに構築したブランドメッセージ「みなが咲き、ながさき。」とも連動させ、夢や希望が花開くという意味も込めております。

続きまして、10ページです。こちらは大きな変更点はございませんが、改めて基本理念を実現するための基本姿勢としてご説明いたします。すべての施策分野に共通する視点として、デジタル技術の活用、ブランディング、多様な主体との連携・協働、そしてSDGsの反映などの要素を盛り込んでおります。参考までに、ブランディング要素については206ページ以降に詳細をまとめておりますので、お時間のある時にご覧いただければと思います。

次に11ページです。こちらは基本理念を実現するための政策分野別の柱立てです。中央の柱については、名称を「しごと創造」から「しごと」に変更いたしました。この変更は、6月定例議会でのご意見を踏まえ、先端技術やスタートアップなどの新産業創出だけでなく、既存産業や地場産業にも力を入れていくという姿勢を反映したものです。前回の懇話会でご了解いただいた方向性に基づいて変更しております。

続いて12ページです。こちらでは、5本の柱ごとに設定している10年後のめざす姿を「ありたい姿」としてお示ししております。県民の皆様が政策の方向性をイメージしやすいように、新しい長崎県づくりのビジョンを再構築し、各柱に4～5項目ずつ記載しております。

13ページでは、各柱を構成する基本戦略と施策の体系図を掲載しております。前回の懇話会でごいただいたご意見を踏まえ、微修正を行っております。例えば、「こども」分野の施策「すべての子供たちを支援する魅力ある教育環境づくり」については、「学校教育の環境づくり」と名称を変更いたしました。それ以外には大きな修正はございません。

14ページ以降では、SDGsとの関連について、各施策との関係を整理表として記載しております。

20ページから141ページまでは、計画の本体部分であり、12の基本戦略と45の施策について記載しております。前回の懇話会でのご議論を受け、成果指標や主な取組に修正を加えております。

また、今回は未確定だったアンケート結果などが出揃ったため、調整中だった目標値を確定し、赤字で記載しております。以下、修正・追加された主なページをかいつまんでご説明いたします：

22 ページ：「ココロねっこ運動」の趣旨を理解し、普段の生活で心がけている人の割合

24 ページ：トラブル等に関する相談ができる人の割合

34 ページ：該当項目に赤字で目標値を追記

40 ページ：ひとり親家庭の親の正規職員・従業員の割合（指標追加）

45 ページ・51 ページ・61～62 ページ・67 ページ：暮らし分野の目標値確定に伴う記載修正

104～106 ページ：観光消費額、消費単価、延べ宿泊者数、観光客満足度などの数値追記

126 ページ・133 ページ：災害に強いまちづくり、まちづくりの評価に関する目標値追記

続いて、142 ページからはテーマ別の取組を記載しております。県政全般にわたる重要課題をテーマ別に整理しております。「地方創生」「県民所得向上」「しまの創生」「国際県ながさき」の4つのテーマについて、それぞれのめざす姿、現状、課題、本県の特長などを整理し、数値目標と主な取組を記載しております。

163 ページからは、地域別の取組を記載しております。県内を7つの地域に分け、それぞれの地域資源や産業などの特長を明示し、めざす姿と取組の方向性、特徴的な取組を記載しております。この作成にあたっては、地域で活躍されている方々や市町との意見交換を重ね、その結果を参考にしております。なお、県内全域で共通して取り組む内容については、計画本体に記載しております。

205 ページでは、計画推進の仕組みについて記載しております。県庁内部の体制として、行財政運営の推進、PDCA サイクルによるマネジメントサイクルの展開などを記載しております。

最後に口頭での報告となりますが、計画素案については、10月6日までパブリックコメントを実施し、市町や関係団体への意見照会も行っております。これらの意見に加え、本日の懇話会や9月議会でのご意見を計画案に反映し、11月定例会に議案として提出する予定です。

計画案が議決された後は、県民の皆様への周知を進める段階に入ります。計画本体に加え、ポイントを整理したダイジェスト版の冊子を作成し、議員の皆様をはじめ、市町や関係団体に配布する予定です。また、テレビ・ラジオ・広報紙など様々な媒体を活用して広報を行い、県政出前講座などを通じて、計画内容の説明や意見交換も行っていきたいと思います。

計画の推進にあたっては、県民の皆様はもちろん、多様な主体との連携・協働が不可欠です。それぞれの立場で実践していただくことをお願いしていきたいと考えております。

参考資料として、第3回懇話会でいただいた意見の反映状況も配布しておりますので、ご確認いただければと思います。

以上で説明を終わります。

各委員コメント

鶴田部会長

それでは、ここから意見交換に入りたいと思います。

本日のこの部会は、時間がだいたい午後3時前までということで、これからあと40分ほどございます。今回ご説明いただきました計画の中身に対するご意見はもちろんですが、これまでの部会におけるご感想や議論の振り返り、また「今後こういう進め方が良いのではないか」といった、これからの進め方についてもご意見をいただければと思っております。

できましたら、本日は皆さんからご意見をいただきたいと思いますので、反時計回りで一言ずつご意見をいただく形で進めさせていただきます。

時間があれば、さらに意見交換の時間も設けたいと思っております。それでは、安達委員からお願いしてよろしいでしょうか。

安達委員

参加させていただいた仕事部会に関するところで、3点ほどお話をさせていただきます。

まず1点目は、74ページから始まる基幹産業のところですが、第1回目のときにも少しお話ししましたが、4つの基幹産業の売上や記載について触れたと思います。もともとこういう形で記載される予定だったと思いますが、改めて拝見して、非常にわかりやすくなったと感じました。基幹産業は売上高や加工金額だけで決まるものではないと思いますが、例えば半導体関連産業では、令和12年に雇用者数は20%増、売上高は2倍以上という記載があり、設備投資が整っていることから、こうした状況になるだろうと読み取れます。

海洋エネルギーについては、これからスタートするということも読み取れ、非常にわかりやすくなったと思います。

2点目は、KPIについてです。82ページの新卒雇用に関する項目で、成果指標が3つあり、UIターンの方は「就業者数」、県内の大学生・高校生は「就職率」となっています。これはある程度理解できるのですが、もし県内大学生・高校生の就職率が上がっても、就職者数が減少する可能性があることを考えると、参考値として「就職者数」も併記されていると、現実がより明確にわかるのではないかと思います。

3点目は、しごと部会に関するKPIの多くが「売上」「出荷額」「生産額」など価格に関するもので、非常に定量的に捉えられている印象を受けました。ただ、これを5年後にどうなるか予測するのは非常に難しい問題です。突き抜けた数字が出る可能性もあれば、業界の変化で維持すら難しい可能性もあります。そういう意味では、KPIはKPIとして設定しつつも、今の時代においては、将来に向けた基盤整備が重要であり、企業の規模に関係なく、県が新しいことや基盤整備をサポートする姿勢をどこかで表現していただけると良いのではないかと思います。

全体的に構成は非常に読みやすく、良い印象を持ちました。

池田委員

このような上流での計画に参加させていただくのは初めてのことで、大変勉強になりました。皆さんからのご意見を聞かせていただき、ありがとうございました。

私自身、足立委員のように具体的な部分については業種の関係上なかなかお話しすることが難しいのですが、1点だけ気になった点があります。

79ページに「本県のBCPを生かした本社機能の移転等により、女性の活躍が見込める金融・保険関連等の企業誘致」とありますが、あえて「金融・保険関連」と限定されていることで、女性の活躍がその分野にしか結びつかないような印象を受けました。この表現については、少し調整いただけると良いのではないかと感じました。

また、基本理念である「ながさきの誇りと希望を力に、みんなで夢あふれる未来をひらく」という言葉は、県だけでなく、企業や個人も持ち続けていかなければならないものだと思います。この理念をしっかり頭に置いて、県が情報発信をしていくことで、県内の企業や県民一人ひとりが自分

ごととして取り組んでいくことが大切だと感じました。トライアンドエラーを繰り返しながら、少しでも成功に導いていくことを期待しています。私たちも、小さいながらもその一助になっていきたいと改めて思いました。ありがとうございました。

犬束委員

一次産業について、しごと部会で感じたことをお話しします。

一次産業の魅力の伝承は、こども・くらし部会ともつながっていて、子供たちに体験させることが非常に重要だと思います。小さいころからの経験を積むことで、一次産業の魅力が伝わるのではないかと感じています。そういう意味で、「しごと」が真ん中にあり、「こども」「くらし」「にぎわい」「まち」が周囲にある構成は納得がいくなと思いながら拝見しました。

また、にぎわいにも関係することですが、公共施設の遊休化が目立ってきています。人口減少が進む中で、これらの施設を利用する際のハードルを下げ、申請書類を簡素化するなど、誰でも使いやすくなるような仕組みがあると良いと思います。企業がそこに入って起業できるような仕組みづくりがあれば、地域の活性化にもつながるのではないのでしょうか。

さらに、各地域で水産物などのブランド化が進んでいますが、例えば「人を売る」ような発想も面白いのではないかと思います。達人や名物の人に会いに行くような仕組みがあれば、地域に足を運んでもらえるきっかけになりますし、研修などを通じて地域の魅力を発信できると思います。物だけでなく、人を通じて地域の魅力を伝えることができれば、より明るく楽しい雰囲気が生まれるのではないかと、妄想しながらこの会議に参加させていただきました。

大久保委員

私からは、犬束委員のご意見にもありましたように、子供たちに地域産業を体験してもらうことは非常に重要だと思っています。この部会の中ではあまり話題にできなかったのですが、幼稚園から小学校、中学、高校まで、教育現場でそうした連携が常に意識されるような仕組みがあると良いと思います。情報提供を通じて、教育現場で地域産業とのつながりを意識できるような仕掛けがあると、子供たちの意識にもつながるのではないかと感じました。

もう1点は、後半に記載されていた地域別の取組についてです。それぞれの地域で個別の取組が織り込まれていて、対馬市との打合せもされたとのことで、具体的な内容が反映されていると感じました。ただ、計画はされても、実際に実践していく際には、県の音頭取りはもちろんですが、市町の現場がどれだけ本気で取り組んでいただけるかが非常に重要です。そのため、県から市町に対してしっかりと連携を図り、現場の人たちと協力して取組を進めていただけるような仕掛けを、さらに強めていただければと思います。

このような大切な計画書に携わらせていただき、ありがとうございました。以上です。

大島委員

まず、懇話会にお誘いいただき、参加させていただき、本当に勉強になりました。ありがとうございました。完成版を拝見して、安達委員もおっしゃっていたように、ページ数は多いですが非常に見やすく、よくまとめられていて、県庁の皆様のご努力に感謝申し上げます。

私は仕事の話をするのはおこがましいのですが、教育や研究、若者の人材育成に携わる者として、また女性としての立場からお話しさせていただきます。

最近、長崎大学で文科省の予算がつき、「半導体人材育成拠点形成」の事業が始まりました。補正予算で、簡単な半導体デバイスを手作りできる施設が整備され、2年後にプログラムがスタートする予定です。大学生・大学院生の教育はもちろんですが、学外の方にも利用していただきたいと考えており、転職を希望する方や企業の人材育成にも貢献できればと思っています。ぜひ、大学の施設や教育リソースを活用していただければと思います。

また、若い学生さんのスタートアップ支援にも関わっていく必要があると感じています。研究の中でスタートアップにつながるような芽を育てていくことも、教育機関としての役割だと思っています。情報人材についても、長崎県には情報系の教育に力を入れている学校が多く、今後巣立っていく人材が県に貢献してくれることを期待しています。

さらに、若者の県外流出についてですが、私自身の娘が今年4月に高校を卒業して就職しました。親として「長崎に残りなさい」と言うのではなく、本人のやりたいことを応援するのが自然な流れだと思います。その中で、どうやって県内に人を残すかというのは非常に難しい問題です。全国展開している企業を誘致し、長崎に拠点を作ってもらい、そこに新卒者を配属してもらうことで、県外の人にも長崎を知ってもらい、好きになってもらう。そうした外から人を呼び込む取り組みも重要だと感じました。

女性の活躍についても、教育機関として女子学生の後押しをしていく立場として、力を注いでいきたいと思っています。

最後に、この冊子についてですが、40年生きてきて、前回の冊子を見たことがなかったことを少し恥ずかしく思いました。ぜひこの素晴らしい計画を広く広報していただき、県民一人ひとりが知っているくらいの周知を目指していただければと思います。私たちも頑張っていきたいと思います。以上です。

後藤委員

私は、配布された資料や流れてきた資料を、かなり熟読したつもりであります。その中で、時間が限られていることもあり、かなりまとめてきました。今になって「これか」と言われるようなことを申し上げるのは恐縮ですが、まずしごと部会についてお話しします。

88 ページに「想起率」の話があります。施策の概要の最初の部分に「アンテナショップ云々」という記載がありますが、成果指標や基準値、目標値が上の表にある一方で、ホテルなどを通じて長崎県の品物を売り込むことで、想起率のアップを図るという文言が欲しいと感じました。「長崎といえば、あれだ、それだ、これだ」といったものが自然に出てくるような、そういう計画が必要だと思います。

次に、基本的な点について申し上げます。基準年が不明で目標値だけが定められている項目が、33 ページ以降にかなりの数あります。今日の最新版では確認できていないので、修正されているかもしれませんが、93 ページから 95、96 ページと続き、私もすべて調べましたが、158 ページまであります。これらの項目に基準値がないまま目標値だけがあるのは、いかがなものかと思っております。

また、基準年が令和7年と示されている項目も20 ページほどあります。令和7年が確定できるものであれば記述しても良いと思いますが、まだ進行中の年であるため、形骸化された指標にならないかと懸念しております。

36 ページには、病児保育の関係があります。病児保育の設置数は記載されていますが、利用に

については、例えば受け入れ時間が8時半以降であることが多く、就労している保護者にとっては厳しい対応となっています。働き方改革の観点からも、例えば2交代制で、仕事前に子どもを預けられるような時間帯の設定が必要ではないかと思います。そうしない限り、子どもを1人産んだら20年以上育てなければならないという現実の中で、入口の段階で躊躇してしまう方が多いのではないのでしょうか。長崎県では「子どもを産みたい」という希望を持つ人の割合が高いにもかかわらず、実際の出生率は1.6人程度です。この差は非常に大きく、長崎に住めば子育てがしやすいという魅力を、産業面だけでなく子育て面からも発信できるような施策の展開を期待しています。

130ページには、防災訓練の実施回数が「令和12年に7回」と記載されています。これは非常に少ないと思います。長崎県は7地域に分かれているとのことですが、南海トラフ地震や気候変動による激甚災害に対応するためにも、訓練回数を増やすべきです。昨年の21市町の実施を目標にするとは言いませんが、令和12年にはもっと多くの訓練が実施されるような計画にしていきたいと思います。

207ページのブランドメッセージ「みなが咲き、ながさき。」についても申し上げます。「みなが咲き、ながさき。」という表現に、ひらがなの下に丸印がついていますが、句読点が必要なのか疑問に思います。また、ブランドステートメントの中に「1479の島々」とありますが、具体的な数字を記載する必要があるのか、「多くの島々」といった表現でも良いのではないかと感じました。さらに、207ページの一番下にある「長崎県のブランドコア」の中で、「包容力」という言葉が使われていますが、「包摂性」の方が適切ではないかと思います。「包容力」は、自分と異なる考えを持つ人を含むという意味合いがありますが、「包摂性」は、排他的にならず、誰もが受け入れられるという意味で、より現代的で適切な表現だと思います。

最後に、私が子どもの頃、長崎県の県政番号は「42」でした。全国の中で、長崎県の順位はだいたい42番前後という印象でした。しかし、今は時代の変遷の中で、産業も発展しております。この計画を充実させ、もっと高みを目指していければと思います。

近江商人の精神に「三方よし(売り手よし、買い手よし、世間よし)」というものがあります。この考え方をもとに、計画書を作り、県民と一緒に推進し、その果実を享受することで、新しい素晴らしい長崎県が見えてくるのではないかと考えております。以上です。

富永委員

第2回懇話会からの参加でしたが、非常に勉強になりました。本当にありがとうございました。

まず感想ですが、担当部署の皆さん、そして各委員の皆さんが意見を出し合い、「長崎を良くしたい」という思いで集まって作られた立派な計画だと思います。見やすく、構成もよくできていると感じました。

ここからは意見になりますが、私たち民間も同じですが、今後この計画が多くの方に浸透するような働きかけや仕組みづくりを、しっかり行っていただきたいと思います。冒頭に内田課長から、ダイジェスト版の作成やテレビ・ラジオなどの媒体を活用した広報について説明がありましたが、SNSなども含め、さまざまな手法を使って、対象となる方々にしっかりアプローチしていただきたいと思います。そのアプローチの仕方によっては、効果が10%、20%と大きく変わってくる可能性もあると思います。今後はこの広報・浸透の部分をしっかりお願いしたいです。

民間では、計画も大切ですが、それ以上に「しっかり実行すること」が求められます。今回の計画には多くの項目があり、さまざまな部署が関わってくるとと思いますが、担当部署だけでなく、横

断的に「長崎を元気にしたい」という思いを持って、庁内はもちろん、私たち民間も含めて、みんなでスクラムを組んで進めていければと思います。ぜひ、実行と進捗管理をしっかりとお願いしたいと思います。

原田委員

実は私は18歳までは佐世保に住んでいました。その頃の佐世保はまだ華やかだったという記憶があります。その後、42年間は東京で暮らしていましたが、60歳になった頃、父が亡くなり、母が一人暮らしになったため、一念発起して家族を東京に残したまま、単身赴任で佐世保に戻ってきました。

佐世保で働いて6年になりますが、この間にコロナ禍がありました。コロナで多くの大事なお店が閉店しました。その後、県北ではIR、統合型リゾートの認可が国から得られませんでした。さらに、新幹線も佐世保を通る予定だったのが、大村・諫早・長崎までとなり、県北には何もないという状況になってしまいました。

現在、佐世保市の人口は約22万6千人ですが、月に400人前後が転出しています。年間で約5千人、10年で5万人が転出する計算になります。30年後には自治体として成り立たない可能性もあると、非常に不安に感じています。そんな中、「我がふるさとはどうなるのか」と思っていたところ、この懇話会の存在を知り、参加させていただきました。

ですので、今回の施策に関しては、私はすべて「人口減少を抑制するためのアイデア」を振り絞って提案させていただきました。通った提案もあれば、通らなかったものもありますが、この結果が5年後、10年後の長崎県の人口に反映されることを楽しみにしています。

今後についてですが、他の46都道府県とは異なる施策、特に長崎県らしい「地の利を生かした施策」を、知事や県の皆さんと一緒に考えていただきたいと思います。「これなら全国から人が呼べる」、「黙っていても人が集まる」、そんな施策に対してプラスアルファのアイデアを提案できるような懇話会として今後も続けていただけると幸いです。以上です。

松山委員

この委員に携わらせていただいて、途中で五島市から東京に転勤になってしまったんですが、その中でもこの会に携わらせていただいたこと大変ありがたく思っております。このような機会をいただきありがとうございました。

私からは2点ありまして、冊子のところに205ページの部分をすごく見ておりました。私自身は豊田通商という、五島市にドローンの物流事業を構えている会社として、東京から引き続き、長崎には携わっていきますが、まさに計画の中にも記載がある、特区の枠組みを使ってドローンを活用した物流の日本発の実証といったことをまさに企画しております。今年度中におそらくニュースとかで、皆様に成果を見ていただけることもあろうかと思えます。そういった意味では、本当にこの205ページの最初の2行ってというのが本当にとっても大事な一文であるというふうに思っております。県民、地域、団体、大学、企業、市町、いろいろな主体がそれぞれの役割を発揮しながら新しい長崎県づくりに取り組んでいくってことを、県が作り、でも県庁任せではなく、民間は民間の立場で何ができるか、どういうことが県や島民とか皆さんのためになるかっていうのを真剣に考えていながら、引き続きやって参りたいという志を新たにしたところです。

それからもう1つ、東京に戻ってからいろいろなニュースとか見てますが、五島列島の分娩施設

が減っていくとか、海上タクシーの事業継続が難しいとか、インフラに関わるころの非常にシビアな変化点がある。そういった意味では、課題先進地域としての待ったなしの課題顕在化がやっぱり進んでいく中で、それを目の前にされてる当事者にとっては、この基本理念がともすると綺麗事にしかこう見えなかったり、心が寄り添えないみたいな場面もあるのかなと思います。そういったときに、多分一番苦しむのは、県庁の職員さんお１人お１人だったりすると思います。

そういった意味では、ここのページにも書かれていますが、職員一人ひとりが高い志を持ってっていうのは、時に難しいときとか、くじけそうなこともあるかと思うんですけど、こういった場で、いろんな方が思いを持って作ってきたこととか、そういうことを思い出していただきながら、ぜひ、職員の皆様にも、向こう５年間、新しい長崎県に向けて一緒に歩いていければなど。私は東京からですけど出張で来たりしますし、たった１人の一民間人ですが、そういったエールを送り、改めてお礼の言葉としたいと思います。

鶴田部会長

最後に、私から一言申し上げます。

今回このメンバーで議論ができたこと、本当に感謝しております。皆さんの真剣なご意見、そして何よりも温かく、未来を見据えた、長崎への深い愛情が感じられるご意見をいただいたことに、心から感謝申し上げます。毎回、「意見が出なかったらどうしよう」と考えたこともありましたが、そんな心配をする余裕もないほど、皆さんから多くの意見をいただきました。時間だけが心配になるほど、充実した議論だったと思います。ありがとうございました。

また、事務局の皆様にも心よりお礼申し上げます。非常にタイトなスケジュールの中で、真摯に対応していただき、皆さんの意見を丁寧に反映していただいたことが非常に伝わってきました。ぜひ、この素晴らしい計画を胸を張って進めていただければと思っております。

今日、皆さんのご意見の中で、特に印象に残ったことが３つあります。

１つ目は「若者の視点」です。未来志向の中で、若者にとってどれだけ魅力的な長崎であるかということが、改めて重要だと感じました。

２つ目は「長崎らしさ」です。皆さんが長崎を大好きであることが伝わってきました。その中で、「長崎の強みとは何か」という問いが、皆さんのご意見の根底にあったように思います。これはぜひ、今後も大切にしていきたい視点です。

３つ目は「つながり」です。今日、さまざまな立場の方が集まってくださいましたが、民間、学校、若者から高齢者まで、やはり地域の中でつながっていくことが大切だと、改めて認識しました。

こうした視点を持って、計画に書かれていることをただ進めるのではなく、県民の皆さんに寄り添い、デザイン思考的な、創造力を持った形で、この計画が進んでいくことを心から願っております。以上、私からのご挨拶とさせていただきます。

なお、これから全体会もごさいます。少し時間を置いてからの開催となりますが、またよろしくお願いいいたします。本日は本当にありがとうございました。

（事務局）

鶴田部会長、それから各委員の皆様、本当にありがとうございました。

本日いただきましたご意見につきましては、１１月議会に提出する計画案への反映を検討させていただきます。

また、計画は作って終わりではなく、今後どのように推進していくかが重要です。次年度以降の事業実施に向けて、皆様のご意見をしっかり活用させていただきたいと考えております。

以上をもちまして、第4回長崎県総合計画・総合戦略懇話会「しごと部会」を閉会いたします。

繰り返しになりますが、15時30分から全体会を予定しております。委員の皆様におかれましては、お手数ですが休憩を取られた後、1階の大会議室Cまでご着席をお願いいたします。ご案内いたしますので、どうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございました。